

IV 地域の現状と改善方向及び普及活動の地域課題

1 本所地域系の区域

本所は、留萌管内中央部の苫前町・羽幌町・初山別村・遠別町及び北部の天塩町を活動エリアとして。中央部は、対馬海流の影響で農耕期間は比較的温暖である。

農業地帯は中小河川沿いを中心に水田が、高台に畑地が広がっている。主な作目は水稻(羽幌町・苫前町はうるち米、初山別村・遠別町はもち米)を基幹に畑作物や園芸作物を組み合わせた複合経営が主体である。北部は天塩川左岸流域に広々とした原野があり、夏も冷涼な気候のため草地を主体とした酪農地帯となっている。

(1) 地域の現状と改善方向

ア 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- (ア) 生産力を最大限に引き出す基盤整備やスマート農業等新技术を導入した農地の集積、集約化をはじめとした効率的な農業経営に取り組むことが求められる。特に農業法人経営や規模拡大における個別経営では、労働力不足や生産技術の平準化により、地域農業の継続に向けて生産コスト低減と省力化、効率化に取り組む必要がある。
- (イ) 地域支援システムとして地域に防除組合、作業受託組織さらには酪農生産ではTMRセンター等があるが労働力の効率利用や安定生産に向けて関係機関と連携して支援する。
- (ウ) 安全・安心な食料の安定生産確保においては、苫前町を中心にYES! clean農業の展開がある。このため、環境保全型農業直接支払制度を活用した緑肥作物の栽培や良質堆肥の施用等を推進し、今後も農産物の安全性を目的としたGAPの取得に向け消費者の食に対する「安全・安心」に応えた生産を推進する。
- (エ) 水稻では低タンパク米の出荷率向上を目指し取り組んでいるが近年では、気象の影響も有り年次変動が顕著になっている。このため、土壌診断に基づいた施肥や省力、安定生産技術の徹底が産地評価を高めるためにも重要である。
- (オ) 畑作は、転作地における排水不良や小麦、大豆の栽培に偏るところがあり、地域の状況に合わせた排水改善や土壌改良、輪作体系によって良品質、安定生産が望まれる。さらに、生産技術の向上による生産量の確保と収穫体制の整備が必要とされる。
- (カ) 園芸は、高収益作物として位置づけられ安定した品質や出荷が求められる。このため、生産の効率化と有利販売に向けた広域出荷体制の産地力の支援が重要である。
- (キ) 酪農生産では、個体乳量は全道レベルに比べ低く、飼養管理等のカウコンフォートが劣っているため乳質が低迷している。このため、施設の改善によるカウコンフォートの適正化、良質飼料の確保による個体乳量の増加と乳質の改善により所得の確保が望まれる。
- (ク) 良質飼料の確保に向けて、鳥獣被害は年々増加しており、特に収穫前の飼料用とうもろこし等の被害は大きく生産量に影響している。このため、関係機関と農業者とし協力して継続的な対策が必要である。

イ 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- (ア) 農家戸数の減少や労働力不足から新規就農者の確保・育成が喫緊の課題であり重要な取り組みとなっている。

オロロン地区(旧JAオロロン、遠別町、初山別村、羽幌町)では、平成30年から「オロロン地区農業担い手確保対策協議会」が設立され地域に定着した新規就農者に対してJAと各町村が連携して支援を行っている。これらの取り組みを充実させるとともに天塩町苫前町を含めた地域全体に波及することを目指す。

- (イ) 管内の新規就農者数の状況は、平成30年は10人以上であったものの概ね5～6名となっている。このため、就農補充率(就農者数/戸数)は、39.1%(R1)と低い。
- (ウ) 新規就農者の支援として「るもい農業基礎ゼミナール」を開講し、農業に関する知識向上と仲間づくりをR1年度より進めている。この取り組みをJAや町村の一層の協力

を進め新規就農者の「基本技術の習得」、「仲間づくり」の場として位置づける。また、青年組織や4Hクラブへの参加を進め地域の青年との交流を図っていく。

- (エ) 女性農業者は、管内女性ネットワークを中心に活動が展開しているがグループの経過年数により高齢化が進んでいる。そのため、ネットワークの活性化を図り、次世代を担う女性農業者の育成が求められる。

また、若手女性農業者の役割は地域の活性化と農業経営に大きな役割を担っている。このため、女性農業者が活動しやすい環境の整備と家族経営協定や女性農業者の農業経営の位置づけを明確にしていくことが必要である。

- (オ) 地域の指導農業士、農業士は町村別に組織され活動をしている。指導農業士は、地域の振興と担い手育成にその役割を担っている。今後も活動に向けた理解と積極的な農業研修や体験受入等の協力体制を強め役割を明確に進めていく。

また、農業士については、4Hクラブや青年組織等の理解者として役割を担い次代のリーダーとして期待する。

- (カ) 地域における農業生産法人は、離農跡地の受け皿や農作業の受託等地域農業を担う重要な存在となっている。

このため、農業法人の安定経営は地域農業の活性化に不可欠であり、課題解決に向けた取り組みや農業に興味を持った他産業からの新規参入を目指す者の研修の場や雇用就農の場として重要である。

ウ 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- (ア) 地場農産物を活用した加工等の6次化を目指し、生産者、加工業者と連携して付加価値を高める取り組みが行われており、こうした取り組みを行う農業者と栽培技術の支援や関係機関、加工業者等との連携を支援する。

- (イ) 消費者ニーズは多様化しているものの地域の特色を活かした農畜産物が望まれている。地域における野菜生産では、地域の特色を活かした栽培と販売も取り組まれているため、生産と販売に向け栽培技術の支援をはじめとし需要に応じた販売の取り組みを支援する。

- (ウ) 地域では、冬場の農業所得確保に向けて「冬野菜」の生産も取り組まれているが、生産量、品質においては他産地に比べ劣る。このため、地域の特色を活かした生産技術の習得と地産地消をはじめとして商工や消費者のニーズを取り組み、所得確保に向けた安定生産に努めていく。

- (エ) 地場産品として求められている製品について企業と連携し技術支援を行い、栽培技術や加工適性等についても農業者や地域の農業高校との連携で地場産品の加工適性についても検討していく。

エ 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- (ア) 地域には広大な農地と自然豊かな山海が広がっており、地域の豊かな農村生活や農業の魅力の発信が可能である。

- (イ) 地域の教育機関や社会教育と連携して学童の体験学習や農業に興味を持つ道内の大学生等の体験や調査研究の場として協力していく。

- (ウ) 都市と農村の交流促進に向けては、関係機関と先進的に取り組んでいる地域の情報収集や興味を示す農業者とともに地域の活性化に向けて支援する。

- (エ) 地域の農業・農村への理解を促進するために、関係機関や農業者組織と連携し地域のイベント等関係機関とともに農村の魅力にふれあう機会を進めていくことが求められる。

- (オ) 農村の豊かな資源を活用した、地域が可能な農泊や農業体験等の取り組みを関係機関や農業者組織と検討していく。

- (カ) 他産業と連携して町村を越えた地域一丸となったPR活動を支援していく。

(2) 普及活動の地域課題

ア 地域係の担当活動区域（苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町）

(7) 現状と改善方向（地域係）

a 苫前町

(a) 農業・農村の現状（苫前町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・「YES!clean」の認証は、水稻、畑作（大豆、小豆）及び園芸作物（かぼちゃ、メロン、スイートコーン、ミニトマト）で取得しており、水稻においては特別栽培に取り組んでおり、生産者の環境負荷低減に対する意識は高い。
- ・農協や利用組合が主体となった米や豆類の収穫乾燥調整や、小麦や大豆のは種及び収穫作業の受委託が行われており、農業機械の有効活用や個々の農家の作業軽減が図られている。
- ・平成30年度にスマート農業推進協議会が発足し、令和元年度に産地パワーアップ事業を活用してスマート農業に関する機材が導入されており、農作業の省力化機材の有効活用が重要である。
- ・畑作物では、秋まき小麦や豆類においては連作障害の発生や湿害が問題となっており、適切な輪作や排水対策が必要となっている。
- ・施設園芸では、自動換気装置や換気扇が設置され、管理作業の効率化や品質の向上が図られているが、手作業が多いため継続的な労働力の確保やさらなる省力化が課題となっている。
- ・酪農は、規模拡大の意欲はあるが粗飼料の確保に課題があり、進まない状況にある。また粗飼料品質の向上と繁殖改善が必要だが、近年の取り組みで乳質は改善傾向にある。
- ・家畜糞尿の活用とクリーン農業の実践のために、良質な堆肥を生産、供給する体制を整備して、耕畜連携を推進する必要がある。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・過去5年間の新規就農者は9名で、若手農業者に対して学習や交流の機会の提供が必要となっている。
- ・若手農業者や女性農業者は学習意欲が高く、「農業基礎ゼミナール」や「Windmilk」、「ポティロン」など組織に加入して活動している。
- ・耕種や畜産で設立された複数戸法人は、地域内外の農地を引き受けて規模拡大と経営基盤の強化を図り、併せて農作業受託をする等、地域の中核的な役割を担っている。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・水稻は、良食味品種の「ななつぼし」と「ゆめぴりか」を意欲的に生産しており、平成30年に完成した収穫乾燥施設で調整して出荷されている。
- ・秋まき小麦の「つるきち」や大豆の「ユキシズカ」など、加工業者のニーズ（うどんや納豆）に応えた品種を栽培をしており、収量、品質の高位安定生産が課題となっている。
- ・野菜については、共同選果施設から安定的な市場供給を行っているが、ミニトマトやかぼちゃについては平均反収がやや低い。
- ・かぼちゃの加工に取り組む生産者がおり、安定的な販売について支援が必要になっている。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・苫前町の地域学校協働活動において、農協青年部と普及センターが連携して小学校の学校農園を支援している。

(b) 改善方向(苫前町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・「YES!clean」等の農薬や肥料を低減した栽培で安定した収量・品質を確保するために、耕種的防除の徹底や予察防除の実践、耕畜連携による堆肥の利用体制整備について支援する。
- ・農作業の受委託においては、土壌病害虫の拡大に留意し、地域で生育を揃える等の品質を高める取り組みについて支援する。
- ・スマート農業の機材の導入は進んでいるが、露地作物においては可変施肥等の先進的な技術実践につながっておらず、より先進的な活用ができるように支援する。
- ・畑作物は、連作障害を回避出来るように輪作を推進し、排水対策として心土破碎や簡易的な暗渠施工等を実施する。
- ・施設園芸は、労働環境の改善で労働力の確保を進め、労働力の効率的な活用を支援する。
- ・酪農は、牧草や飼料用とうもろこしの収量・品質向上で粗飼料の自給率を高め、乳質や繁殖成績の改善を継続して支援する。また、関係機関と連携して協業型法人の運営について支援する。
- ・飼料作物や畑作物においては、堆肥や緑肥等の有機物の投入による土づくりを適切に実施して安定生産を目指す。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・新規就農者には、農業基礎ゼミナールに勧誘して学習活動を進める。また、農協青年部と連携して、充実したグループ活動ができるように支援する。
- ・女性農業者には、直売や農産加工を通じた交流の場を提供するとともに、グループ活動を通じて農業技術の習得や積極的な経営参画に向けて意識の向上を図れるように支援する。
- ・複数戸法人に対しては、農業機械の有効利用や雇用環境の整備等について情報提供で支援する。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・水稲の食味（蛋白質含有率）向上のために、土壌条件に合った施肥や初期生育を向上させる水管理等を支援して良食味米の安定生産を目指す。
- ・畑作物は品種特性に応じた栽培について情報提供して、安定的な高品質生産を支援する。
- ・野菜については、「YES!clean」の栽培基準を基に技術の統一して、収量や品質の高位平準化を目指す。
- ・町内で生産される農産物や加工品について、効果的なPRや販路拡大で、生産者の意欲を高め地域の活性化につなげたい。

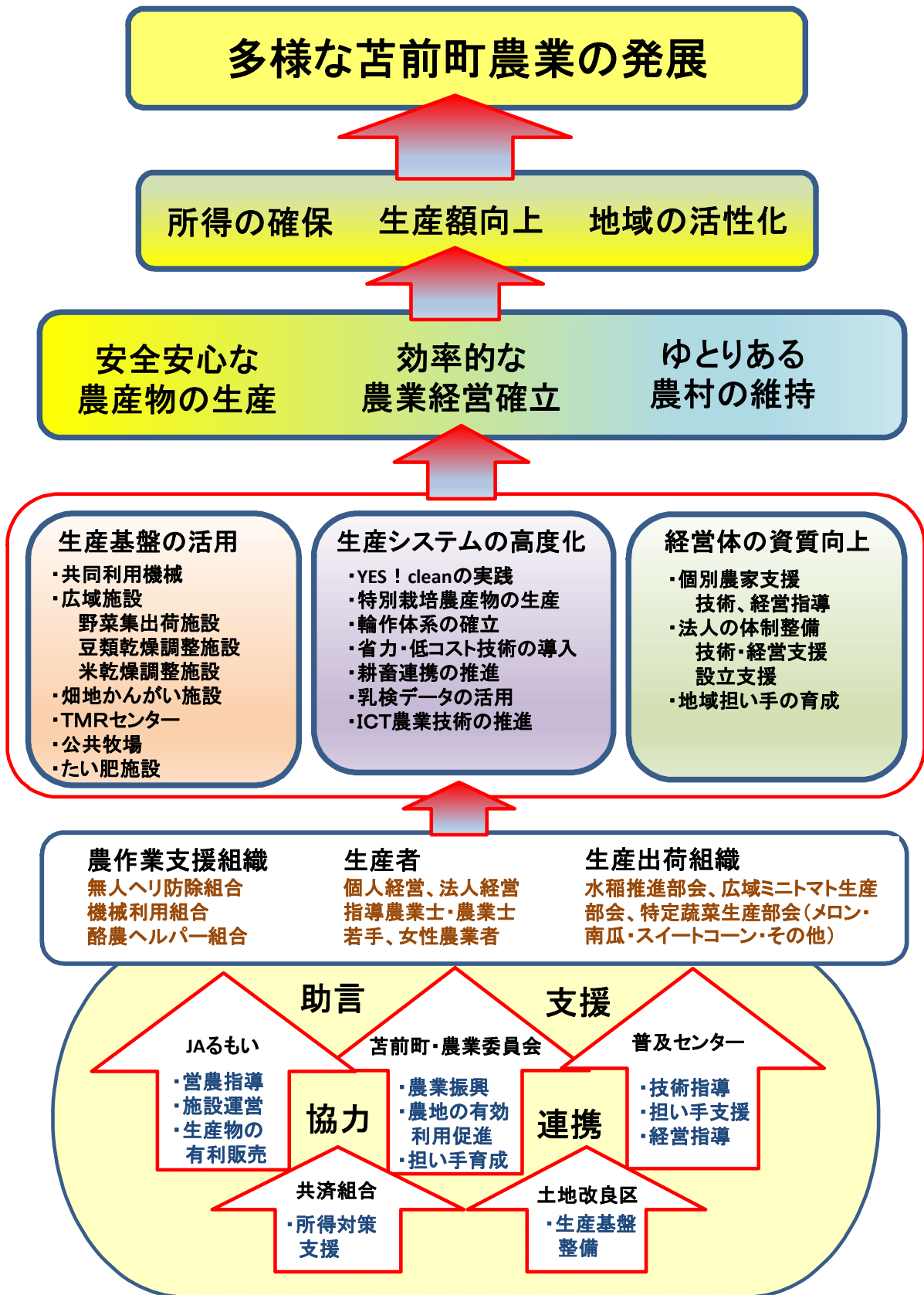
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・学校農園支援については、地域の子供が農業に対する理解を深め、農業に興味を持ち、将来の担い手になりたいと感じる内容となるように支援を継続する。

(c) 具体的な改善対策（苫前町）

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	環境に優しい農業の実践	技術支援	計画策定	組織支援	
	利用組合による作業効率の向上	技術支援	事業導入	運営支援	
	スマート農業機材の有効活用	技術支援	事業導入	組織支援	I C T 協議会
	畑作物の安定生産	技術支援	組織支援	組織支援	
	施設園芸における省力化の推進	技術支援	活動支援	組織支援	
	粗飼料品質の向上	技術支援	事業導入	技術支援	TMRセンター
	耕畜連携の推進(家畜糞尿の適正利用)	技術支援	事業導入	活動支援	
・活多農躍村すなのる人確立業が	新規就農者の学習活動支援	運営支援	組織支援	運営支援	
	女性農業者の活動支援	活動支援	組織支援	活動支援	
	複数戸法人の支援	活動支援	組織支援	組織支援	
農取国内の込外確むの農需要を	良食味米の安定生産	技術支援	組織支援	有利販売	
	実需者のニーズに応じた畑作物生産	技術支援	組織支援	有利販売	
	野菜の収量・品質の向上	技術支援	生産振興	有利販売	
	農産物加工による地域活性化	情報提供	組織支援	情報提供	
のら道確立るの農理解に農支村え	学校教育や消費者交流を通じた農業や農村生活のPR	活動支援	計画策定	活動支援	町公民館

(d) 振興構想図(苫前町)



b 羽幌町

(a) 農業・農村の現状(羽幌町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・若手農業者を中心に、水稻では高密度播種短期育苗や湛水直播栽培、畑作では大豆の狭畦栽培など省力栽培技術の取り組みが増えてきている。
- ・米・麦の乾燥調製はライスセンターに集約して行われている。2組織ある無人ヘリコプターの防除組合は、水稻防除の約35%と小麦を中心に一部の員外を含めた防除を受託している。ドローンを導入し農薬散布を行う個人や営農集団も増えている。
- ・水稻は、「ゆめぴりか」等ブランド米の収量、品質向上に向けて取り組んでいる。
- ・畑作は、排水対策や土壌改良、小麦の連作回避を行うことで、品質低下や病害・雑草の発生を抑え安定生産に向けた取り組みが必要である。
- ・園芸は、担い手の高齢化や規模拡大、近年の低収等により作付けが減少している。
- ・酪農は、乳質改善への意欲は高いものの、結果につながっていない農場もある。
- ・特別栽培米生産グループは、農薬・化学肥料を減らし環境に配慮した栽培方式に取り組んでいる。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・Uターン就農が近隣市町村と比較して多く、J A青年部羽幌ブロックには42名が加入しているが、約97戸の農家の内50歳未満の男性は28人であり、農業の担い手は減少傾向にある。このため1戸当たり経営面積は現在約16haであるが、10年後には20haを超えてさらに拡大することが推察される。法人組織がある地域では、従業員や後継者など担い手が確保・育成されているが、このような複数戸法人は3組織に留まっている。
- ・複数戸法人が農地の受け手として活躍し、そば・大豆・小麦の収穫作業など農作業受託も行っているが、豆類、麦類のは種・収穫作業等の共同化や作業受託組織は少なく、町外の大規模農家や組織への委託も見受けられる。また、規模拡大に合わせて水稻栽培の省力化を図っている。
- ・新規就農者が農業の基礎を学ぶ場が少ないため、本所管内の若手農業者・若手女性農業者を中心とした「農業基礎ゼミナール」を開催し、地域をまたいだ学習の場を提供している。J A青年部に対して作物栽培について研修会により技術の習得を行っている。
- ・「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」が結成され、栽培技術や土壌診断結果を基にした学習会など新たな活動を始めている。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・高付加価値化を志向する農業者を支援し、町による農業の6次産業化の推進を行っている。
- ・うるち米は、留萌管内において「ゆめぴりか」のプレミアム米販売が行われている。しかし、当地域では年次によって品質に差があるため、高位安定化が必要である。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・直売活動を行う農村女性グループは、地域活性化の一翼を担っているが、構成員の高齢化や減少により現状維持の取り組みになっている。
- ・J A青年部羽幌ブロックでは、青年が地域の小学生に対して農作業体験を通し、食育およびPR活動を行っている。

(b) 改善方向(羽幌町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・地域農業の持続に向けて省力栽培技術の導入拡大を推進する。水稲は、高密度播種短期育苗、水稲直播栽培について、畑作は、大豆密植栽培と秋まき小麦の大豆間作栽培等、省力栽培技術を検討する。
- ・ライスターミナルの効率的な利用に向け適期収穫判定等を支援する。無人ヘリ防除組合には、薬剤選定や病害虫発生情報の提供などを行い、効果的な病害虫防除を支援する。
- ・水稲は高い産地評価を継続して得るため、今後も水稲部会を中心に基本技術を励行し良質米生産を推進する。また、「ゆめびりか」等ブランド米の生産はもとより、低コスト栽培法や飼料用米等の多様な米生産を検討する。
- ・畑作は、①収量性向上に向けた透排水性の改善、②大豆や緑肥作物等の導入による連作障害の回避、③緑肥栽培や堆肥の施用による地力の維持・向上を図る。併せて収量の増加と品質安定を促進し、市場評価を高めていく。
- ・園芸は、規格内収量と品質向上や作期・作型の拡大による労働力分散を図る。
- ・酪農は、衛生的乳質改善を中心に、生乳生産性の向上を目指す。
- ・特別栽培等クリーン農業に取り組む生産者を支援する。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・省力栽培技術導入による栽培体系の改善並びに、関係機関と連携して研修会や先進地調査等を行い、25～30ha規模のモデルとなる経営体の育成を促進する。
- ・若手農業者・若手女性農業者・新規就農者を対象に「農業ゼミナール」を開催し、栽培技術向上と仲間づくりおよび経営参画を推進するとともに、農村地域をPRし、地域の活性化につながる活動を支援する。。
- ・地域の担い手である「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」は、新たなメンバーへの参加を募りながら能力の向上及び会員相互の交流を図る。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・6次産業化を志向する農業者と関係機関の連携が円滑に行われるよう、優良事例や加工に関する情報提供及び支援を行う。
- ・米は良食味米の生産を基本に、地域の催事での販売やふるさと納税の返礼品等に活用することで、高品質・良食味をPRしブランド力を高める。

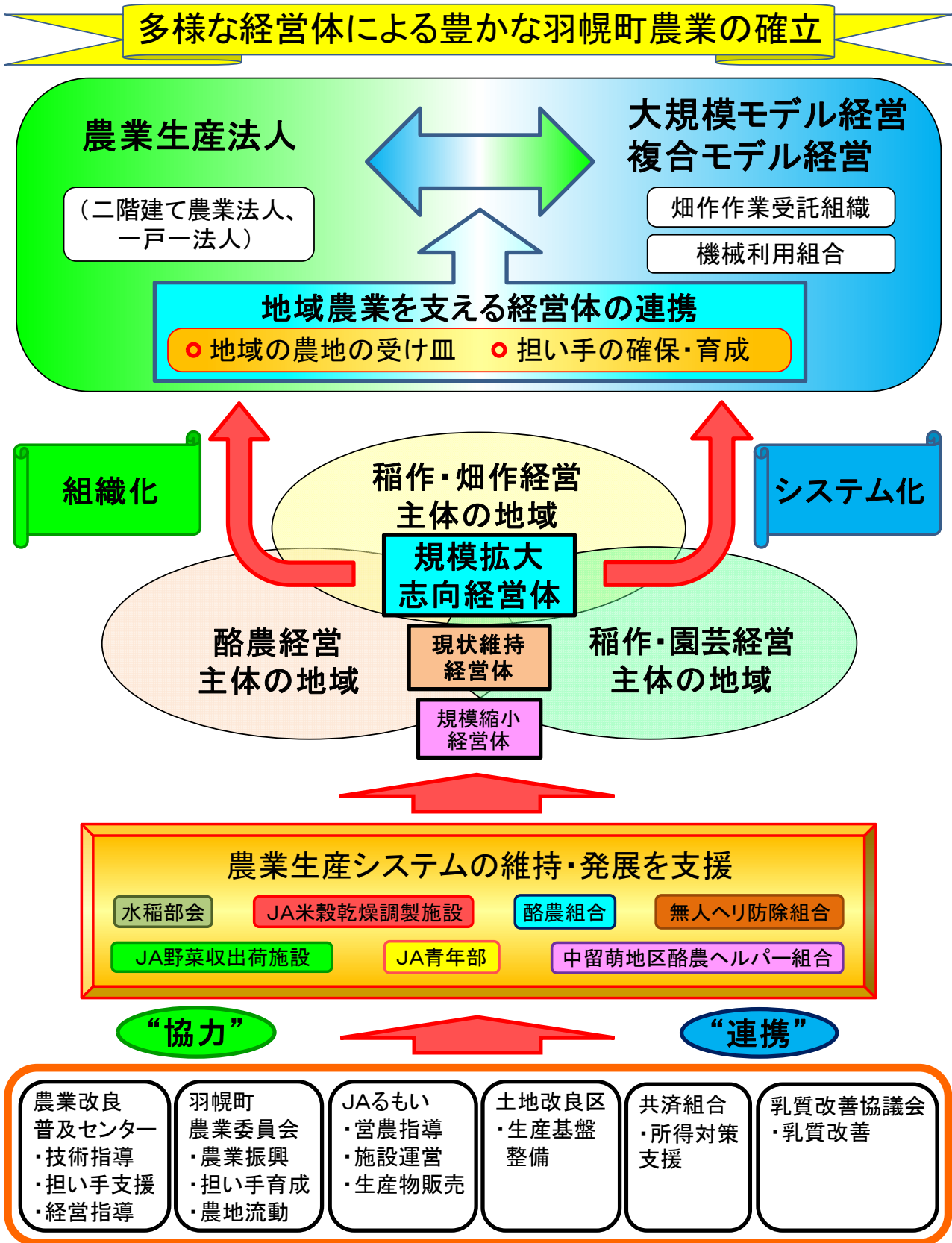
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・直売活動を行う農村女性グループや農業者の活動支援を継続するとともに、ネットワーク活動を通じた交流や情報交換により活性化を図る。
- ・JA青年部の活動支援を行うことで、食育活動を通して地域との交流を推進する。

(c) 具体的な改善対策（羽幌町）

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
農持業・可能村での生産立性が高い	省力栽培技術の導入と拡大	技術支援	事業支援	営農指導	生産法人
	ブランド米の生産拡大	技術支援	生産振興	販売促進	
	畑作物の収量・品質向上	技術支援	生産振興	販売促進	
	野菜の規格内収量向上	技術支援	生産振興	販売促進	
	衛生的乳質の向上	技術支援	生産振興	営農指導	乳質改善協議会
	クリーン農業の促進	技術支援	生産振興	営農指導	
多様な人材が活躍する農業・農村の確立	農業法人従業員や後継者を含めた担い手の育成	技術支援	活動支援	活動支援	振興局農務課
	地域活性化につながる若手農業者・若手女性農業者の育成・活動支援	運営支援 技術指導	活動支援	活動支援 営農指導	
	次世代をにやう若手農業者支援	運営支援	活動支援	活動支援	
農取国内の込外確むの立農需業を	6次産業化につながる取り組み支援	技術支援	生産振興	活動支援	振興局農務課
	農産物の利活用と付加価値向上およびブランド力向上支援	技術支援 利活用促進	活動支援	販売促進 利活用支援	
道農の理農村の支えられ	直売活動を行う農業者への支援	活動支援	活動支援	活動支援	
	女性グループの活動支援	運営支援	活動支援	活動支援	
	食育活動を通じた地域農業・農村との交流およびPR活動支援	活動支援	活動支援	計画策定	

(d) 振興構想図(羽幌町)



c 初山別村

(a) 農業・農村の現状(初山別村)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲作付面積は、高齢化による全面転作や営農中止から減少傾向にあったが、ここ数年は横ばいとなっている。今後のさらなる担い手不足に備えるため、水稲湛水直播栽培や光播中苗栽培が試験的に取り組まれている。
- ・ 水稲の作付けは近年の高温傾向により早生品種に代わって収量性の高い中生品種が増加し、低温年のリスクが高い品種構成となっている。気候によって玄米品質にムラが出やすい傾向にあることから、ほ場にあった施肥設計が必要となっている。
- ・ 初山別村はもち米の生産団地であり、産地評価は高品質米を生産していることから高くなっている。特別栽培米生産組合は、フェロモントラップによる予察を参考に効果的な防除を行い、高品質なもち米を生産している。
- ・ 畑作物は豆類の作付けが減少し、小麦を中心に栽培している。「きたほなみ」の他に「ゆめちから」が導入され、品種特性に応じた栽培法が定着している。一方で小麦の作付けが増加し連作による土壌病害の発生が見られ、収量・品質を不安定にしている。
- ・ 冬場の労働力を有効に活用して所得を確保するため、冬野菜の栽培が行われている。
- ・ 畜産は酪農・肉牛経営が行われており、農業産出額の6割を占めている。生乳出荷量、販売頭数ともに安定している。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 深刻な担い手不足を解決するために、初山別村まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、新規就農者3名確保が計画されている。初山別村地域担い手育成センターを中心に担い手の確保・育成に向けた支援を行っており、関係機関を交えた新規就農者サポートチームが結成され、新規就農者支援を行っている。
- ・ 技術講習会などの機会が少なく、特に若手農業者の学習の場が求められている。新規就農者の学習の場としては、青年農業者グループ「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」が結成され、新たな活動を始めている。
- ・ 稲作と畑作の複合経営が主であり、個別経営が中心である。農業法人は9組織あり、一部組織は農地の受け入れや作業受託を行っている。
- ・ 平成23年に受託組織が発足し受委託体制が強化されたが、小麦の作付面積増加によりオペレーターの過重労働が懸念される。また、高齢化の進行により個人による防除や収穫・乾燥調製は困難となってきており、高性能防除組合(無人ヘリコプター)や機械利用組合等への委託が増加している。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 特産品としてハスカップを利用した加工品が製造・販売されている。一部地域では、高齢農家を中心としてハスカップ栽培に取り組んでおり、平成30年から地元企業へ加工原料として出荷しており、道内コンビニチェーン等で販売されている。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 若手農業者が修学旅行生に対して、農泊や農業体験受け入れ等の農村ならではの地域資源を活用して、農村の魅力を発信している。

(b) 改善方向(初山別村)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・省力栽培技術である水稲湛水直播栽培や密播中苗栽培の生産性向上を支援し、労働力と農地の効率的利用により水稲作付面積を維持する。
- ・水稲栽培技術の高位平準化を進めるとともに、ほ場にあった施肥設計の推進により品質向上と収量の高位安定を図る。
- ・特別栽培米等クリーンな農産物の安定生産に向け、引き続き栽培に関する技術的な支援を行う。
- ・畑作は、小麦の連作障害の改善にむけた提案を行い安定生産支援を行う。
- ・冬野菜は、取り組み農家の対して安定生産と品質向上に向けた支援を行う。
- ・畜産は、自給飼料生産コストの低減や衛生的乳質の向上に向けた支援を行う。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・今後の地域農業を担う新規学卒者が限られているため、新規参入者の受入制度により、関係機関とともに研修生を受け入れる農業法人及び指導農業士と連携して担い手の育成・確保を促進する。研修生募集に際しては、地域での研修内容のPRやカリキュラム作成の支援を引き続き行う。
- ・普及センターは関係機関と連携して、若手農業者・新規就農者を対象に「農業基礎ゼミナール」を開催し、栽培技術向上と仲間づくり及び経営参画を推進する。また、青年農業者グループ「羽幌町・初山別村ピンクファイブ」は、新たなメンバーへの参加を募りながら、能力の向上及び交流を図る。
- ・地域維持を担い、農地及び新規就農の受け皿となる法人の活動を支援する。
- ・受委託システムの強化を支援し、労働の軽減、生産コスト低減による生産性の向上を促進する。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

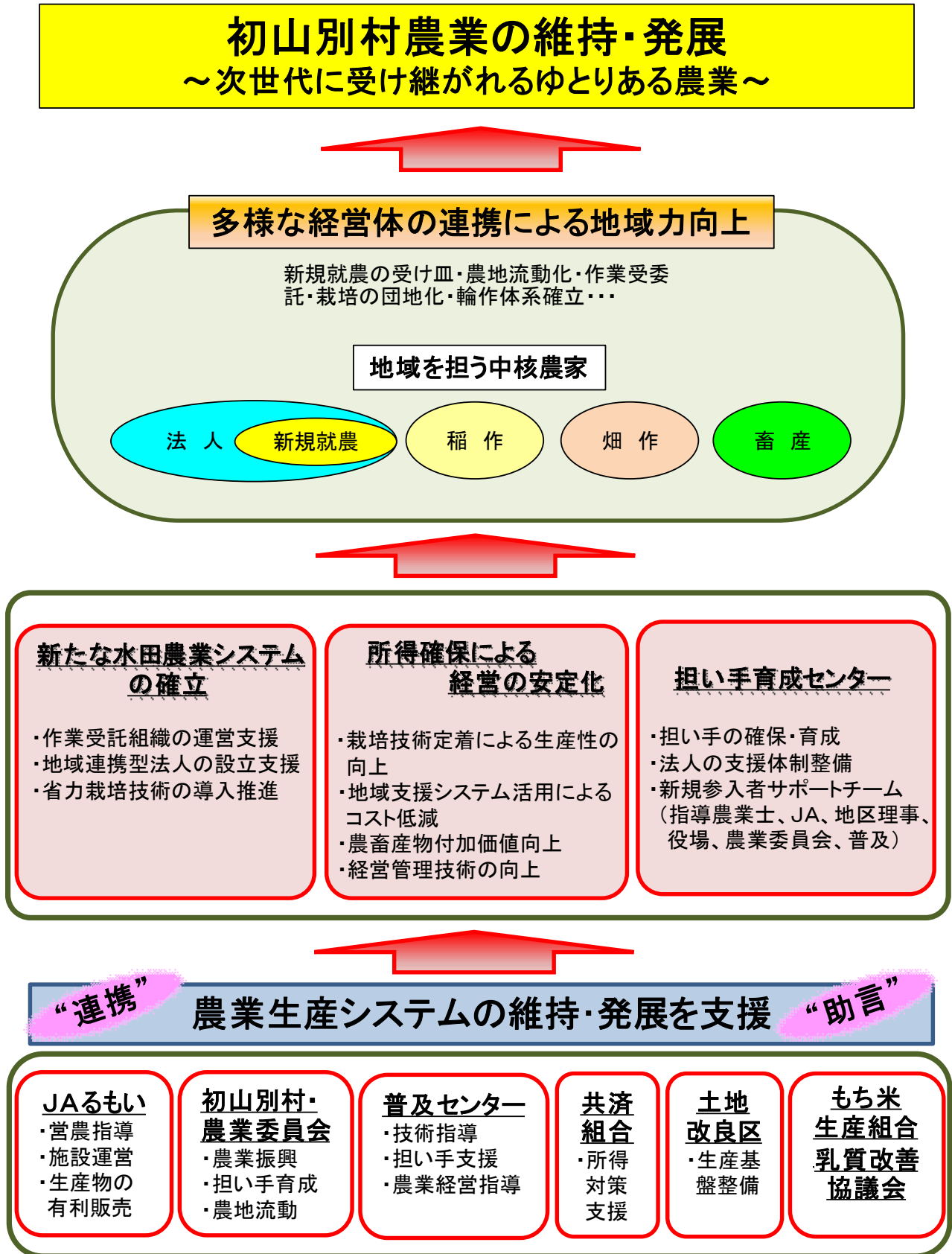
- ・村にある農水産物加工試験研究センターと連携し、ハスカップ栽培及び活用に向けた支援を行う。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・関係機関と連携して、農泊や農業体験等の取り組みを検討していく。

(c) 具体的な改善対策(初山別村)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
・持続可能な生産性が高い農業 農村の確立	水稲省力化・安定生産支援	技術支援	生産振興	販売対策	もち米生産組合
	クリーン農業の促進	技術支援	生産振興	生産販売対策	
	畑作物の安定生産支援	技術支援	生産振興	販売対策	
	冬野菜の安定生産支援	技術支援	生産振興	販売対策	
	衛生的乳質の向上	技術支援	生産振興	販売対策	乳質改善協議会
多様な人材が活躍する農業・農村の確立	新規参入者の受入体制の整備と構築	研修制度策定 運営支援	計画策定	運営支援	新規参入者サポートチーム
	次世代を担う若手農業者の育成	技術支援	計画策定	営農指導	
	地域支援システムの支援	組織支援	組織支援	活動支援	
国内外の農業需要を 取り込む農業・農村の確立	特産物（ハスカップ）の生産支援	技術支援 販売協力	技術支援 加工支援		
道の理解に支えられる農村の確立	地域資源を活用した農村の魅力発信支援	情報提供 活動支援	活動支援	活動支援	



d 遠別町

(a) 農業・農村の現状(遠別町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・複数戸共同型法人「緑進」を核に、他産業から参入した法人や大規模畑作農家と連携した受託体制が構築されている。
- ・水稻(もち米)は、共同乾燥調製により品質は向上し評価は高まってきているが、稲作北限地でさらに近年は早生種から中生種に作付けがシフトしたため、生産量の年次変動が大きい。
- ・畑作は小麦の作付けが急増し販売額は増加傾向にあり、小麦の連作回避を目的に大豆の狭畦密植栽培が行われている。しかし、転作田が多く、透排水性不良が問題となっている。
- ・野菜はピーク時に販売金額が3億円を越えたが減少傾向で、特に特産のメロンの減少が大きい。今後、高齢化と労力不足の進行が問題である一方で、生産を続けている農業者もみられる。
- ・酪農は町内農業粗生産の約7割を占め、1戸当たり出荷乳量578t/年と留萌管内でも比較的規模の大きな農家が多い。しかし、施設の老朽化により規模拡大ができず、出荷乳量が減少傾向にある。衛生的な乳質は農業者の意識改革により、改善傾向にある。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・青年農業者グループとして遠別町4Hクラブがある。昨年、新規会員が増え、クラブ活動も活発になってきている。
- ・若手農業者には、本所管内の若手農業者・若手女性農業者を中心とした「農業基礎ゼミナール」を開催し地域を越えた学習の場を提供している。
- ・北海道遠別農業高校の生徒は将来の担い手として期待されている。ASIAGAP認証を取得している。また、近年青年農業者との交流機会も増加している。
- ・女性農業者グループは加工や直売等活動を行っていて、販売額が伸び、経営の一部門として定着している。また、食育活動にも取り組み、地域農業の理解やPRに努めている。一方で構成員の高齢化が進み、新たな担い手が加わらず、活動の継続が危惧される。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・もち米は硬化性が高く加工適性に優れた「きたふくもち」の作付けが全道一進んでいて、実需者からの評価も高い。また、もち玄米について、地元飲食店やふるさと納税返礼品等販売されている。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・遠別町4Hクラブは、景観緑肥栽培等による町民農園の管理、町内の祭りへの参加、ポップコーン栽培を通じた幼児センターでの食育を行っている。

(b) 改善方向(遠別町)

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・地域維持を担い、農地及び新規就農の受け皿となる法人等に対し、状況に応じた支援を行う。
- ・もち米は高品質米の安定供給に向けて、初期生育の確保や不稔防止の水管理などの基本技術の励行及び、早生品種で耐冷性が強い「きたふくもち」の作付け等で対策を推進する。
- ・畑作は麦類の作付増加に対応し、転作田を中心に基本技術の徹底及び排水対策を推進する。作付けが少ない大豆については、省力かつ水稲との作業競合が少ない大豆狭畦密植栽培の拡大を推進し、小麦の連作回避につなげる。
- ・園芸は、安定生産のための適正管理、育苗、病虫害防除技術等向上を推進する。
- ・酪農は出荷乳量について、関係機関と連携して施設への投資を推進する。また、衛生的な乳質については、改善意識を維持しつつ、乳房炎菌に合わせた対策を推進する。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・4Hクラブに対して、プロジェクトや学習会を通じた能力向上を図るとともに、継続的な活動を行えるように支援を行う。
- ・若手農業者・新規就農者を対象に「農業基礎ゼミナール」を開催し、能力の向上及び交流を図る。
- ・青年農業者との交流やGAPの継続等に関する支援を行う。
- ・女性グループの活動に対し、状況に応じた支援を行う。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・もち米は品質維持に向けた栽培支援を行う。

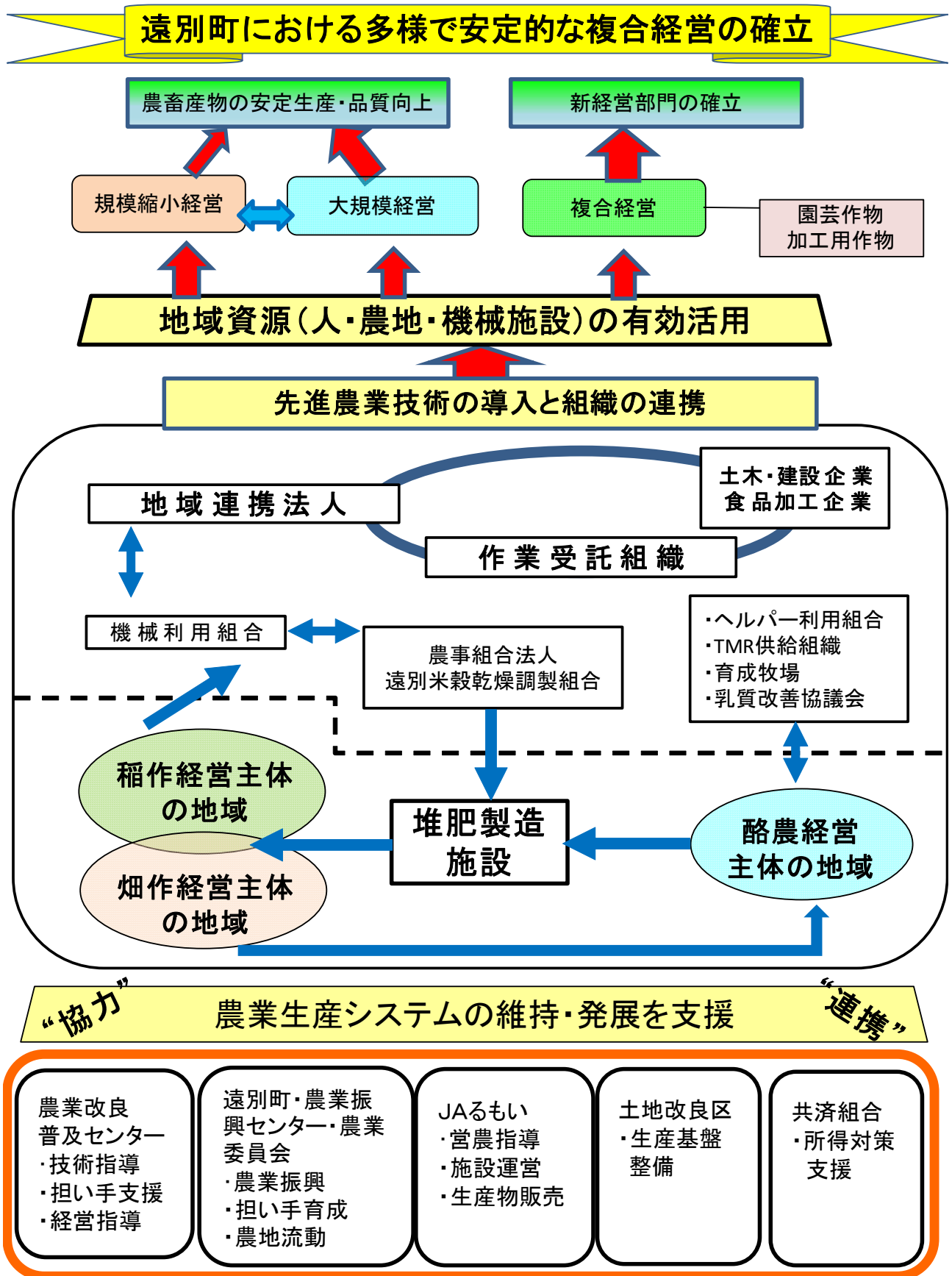
○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・4Hクラブの活動支援を通じて、農業に対する地域の関心を高めていく。

(c) 具体的な改善対策(遠別町)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
・ 持続可能な生産性が高い農業 農村の確立	地域が連携して取り組む受託組織への支援	活動支援	組織振興	運営対策	
	もち米安定生産技術の普及	技術支援	生産振興	販売対策	もち米生産組合
	畑作物の安定生産技術の普及	技術支援	生産振興	販売対策	
	野菜の生産技術の確立	技術支援	生産振興	販売対策	
	生乳出荷量・衛生的な乳質向上	技術支援	生産振興	営農指導	乳質改善協議会
多様な人材が活躍する 農業・農村の確立	青年農業者グループの活動支援	活動支援	活動助成	活動助成	農業委員会
	若手・新規就農者の支援	運営支援	活動協力	活動協力	
	遠別農業高等学校の活動支援	活動支援	活動支援	活動支援	遠別農業高等学校農業教育推進連携協議会
	女性グループの活動継続支援	活動支援	活動支援	活動支援	
国内外の需要を取り込む農業・農村の確立	もち米品質維持、利活用法の支援	技術支援 加工支援	生産振興	加工支援 販売対策	
道民の理解に支えられる農業・農村の確立	町民・消費者との交流を通じた農業PR	活動支援	活動支援	活動支援	

(d) 振興構想図(遠別町)



e 天塩町

(a) 農業・農村の現状（天塩町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・飼料基盤に恵まれた草地型酪農専業地帯であり、自給飼料に立脚した畜産が営まれている。一方、泥炭土や粘質土壌が多く自然災害の影響を受けやすい排水不良のほ場が多いうえ、農家の減少に伴い、乳牛1頭当たりの草地面積が拡大している。そのため、適正な肥培管理がなされていなく、草地植生の悪化が進んでいる。
- ・平成19年「天塩町放牧の会」が設立され、コスト低減や資源循環とゆとりある酪農経営を目指したグループ活動が行われている。
- ・家族労働による経営が中心であり、新規の施設投資を抑えた酪農経営が行われている。給餌通路が狭いつなぎ牛舎が多いうえ老朽化も加わり、作業効率が低く、地域の生産力が上がっていない。また、中山間地域が多いため、トラクタへのGNSSガイダンスシステムや自動操舵システム等の搭載やセンサー機能付きの農作業機械の普及が遅れており、熟練者でなければできない作業が依然と多く、ほ場作業の効率化が必要となっている。
- ・衛生的乳質の向上は地域の課題であり、令和2年度の合乳体細胞数30万個/ml以下の割合は90.1%と、全道平均の98.7%に比べ低く、全道水準の乳質へ改善が望まれる。
- ・後継者不足のため高齢を理由に経営中止となる搾乳農家が増加し、牛舎の遊休化が目立っている。酪農以外の畜産経営への転換について、地域全体として検討がなされていない。現在、一部和牛の繁殖に取り組む生産者や異業種法人の参入も見られるが、地域全体としては肉牛経営を拡大する意識が低い。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・60歳以上の経営主は全体の4割を超え、後継者不足も進行し、約6割の酪農家で後継者がいない。そのため酪農家戸数が減少し、地域の生乳生産量低下が著しく進んでいる。現在まで7戸が第三者経営継承制度を活用し新規参入をしているが、今後さらなる新規参入が期待される。また、就農後の支援体制では指導農業士・農業士の力が十分発揮されていない。
- ・コントラクタ組織が設立され、収穫作業等の外部委託が可能となった。しかし、コントラクタを補助的に利用することに留める経営が多く、労働軽減の目的が果たされていない。そのため、酪農家の労働過重は改善されておらず、生乳生産量は頭打ちである。
- ・JA青年部やJA女性部、乳製品加工グループ等の組織があるものの、相互の連携が弱い。また新規就農者が農業技術や経営の仕組みを習得したり、仲間づくりの機会が少ない。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地域内の農畜産物を活用した、6次産業化への取り組みが定着しつつあり、アグリビジネスや農商工連携など関連産業との連携強化を積極的に進める動きが出てきている。一方で、乳製品加工グループへの若い農業者の加入が少なく、会員の高齢化に伴い、組織の継続が課題であり、若い農業者への世代交代が急がれる。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・農業青年等の地域行事への参加により、地産地消の活動が行われ、地域住民への周知も定着してきているが、外部への情報発信や観光客へのPR等が不足している。

(b) 改善方向（天塩町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・完全更新だけでなく、簡易草地更新を組み合わせることで草地の植生改善を図るとともに、土地条件に応じた肥培管理を提案する。また、飼料用とうもろこしを取り入れ強害雑草対策を行う。
- ・集約放牧志向農家の拡大と研修の充実、関係団体との意見交換等を実施し、経営安定に向けた技術支援を図る。
- ・老朽化した牛舎の改築や更新、作業効率の悪い旧式牛舎の改善に対して、畜産クラスター事業や制度資金等を活用し、搾乳ロボット、キャリロボ搾乳、自動給餌機等の省力化システムの導入を図る。投資に当たっては、個々の経営や技術を把握し、その経済性を十分検討した中で生産性の向上を支援する。また、先行してほ場作業のスマート化に取り組んだ農場の労働生産性を調査、整理し、これから導入を検討している農場に対して、労働力、土地条件、投資額、技術力等を多角的に判断し、個々の経営条件に適した情報を提供する。
- ・地域全体での衛生的乳質の向上を目指し、良質乳生産への意識改革と牛舎環境、ミルキングシステム、搾乳手技の見直し等、総合的な改善を行う。
- ・豊富な草資源や遊休牛舎を活用し肉牛の導入を推進する。先進的に導入している異業種法人等との連携を強化し、研修やセミナー等の開催を実施する。また、酪農との複合化や和牛経営への転換に際し支援を行う。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・関係機関と連携し、農業後継者に対する支援制度の情報発信の強化、牛舎環境の整備に係る相談窓口の設置等、継承しやすい環境整備に取り組む。新規参入事業をさらにテコ入れし、国や道等の制度を活用しながら、道内外からの就農希望者の受け入れを促進する。また、研修生の受け入れ側への援助を充実するとともに、指導農業士・農業士と連携して、就農後のフォローアップ体制の強化を図る。
- ・地域の生産量拡大と個別経営体の労働環境を改善するため、酪農支援システム（コントラクタ、酪農ヘルパー、TMRセンター）の利用拡充や普及を図る。また育成預託施設の充実を図り、地域一丸となった支援システムの構築を支援する。
- ・各種団体組織のリーダーを育成するために、特定の組織活動に特化することなく地域内で幅広く横断的に活動できる機会を作る。また関係機関と協力し、るもい農業基礎ゼミナールを通して新規就農者の育成を図る。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・地域内で生産された畜産物を活用した商品開発の販売促進を商工関係と連携して進め観光と農業が一体化した動きへの展開を進める。また、農畜産物の加工施設の設置の検討を進める。また、乳製品加工グループの若手会員が中心となり、新規会員の勧誘を図り、酪農地帯ならではの加工技術の継承と食文化を広く地域に定着させていく。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・各種地域行事への積極的な参加により地域住民への浸透を図り、地産地消の活動をより積極的にPRする。地域で生産される乳製品や牛肉等を飲食店で消費する活動を展開する。

(c) 具体的な改善対策(天塩町)

区分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	自給飼料に立脚した畜産の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	集約放牧の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	牛舎省力化システム及びスマート農業の推進	技術支援	活動支援 情報提供	営農指導	農業支援センター
	衛生的乳質の向上	技術支援	活動支援	営農指導	NOSAI 乳質改善協議会
	和牛の振興と経営支援	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
多様な人材が活躍する農業 農村の確立	新規参入者の円滑な受け入れ体制の充実	情報提供	情報提供	情報提供	営農担い手協議会
	コントラクタ等の地域営農支援システム利用の推進	技術支援	活動支援	営農指導	農業支援センター
	次世代の地域リーダー育成支援	活動支援	活動支援	活動支援	営農担い手協議会
国内外の需要を取り込む農業・農村の確立	農業者主体の6次産業化を支援	情報提供	情報提供	情報提供	農業支援センター
道民の理解に支えられる農業・農村の確立	地産地消と食育活動の推進	情報提供	活動支援	活動支援	農業支援センター

(d) 振興構想図（天塩町）



(イ) 普及活動の地域課題

a 地域課題一覧（地域係）

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
1	青年農業者の育成	・積極的な活動の定着 (共同プロジェクト数 1→1)	遠別町	遠別町4Hクラブ (11名)	水沼普指 杉村専普 道端普職	R3～R5
		・自主的な活動の定着 (取組みシート作成数 3→3)	羽幌町 初山別村	羽幌町・ 初山別村 ピンクフ ァイブ (5名)	田中普指 西野普職	R3～R5
2	生産性の高い畜産の確立	・個戸の課題に対応した酪農技術支援 (契約数量の達成 9戸→11戸)	苫前町	苫前町酪農家 (16戸)	工藤主査 杉村専普 道端普職	R5～R6
3	酪農危機に対応する酪農経営の育成	・自給飼料を有効活用した酪農経営支援 (契約数量の達成 1戸→3戸)	天塩町	天塩町酪農家 (9戸)	杉村専普 工藤主査	R5～R6

課題 番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
4	○ゆとりある豊かな地域農業の 確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稻省力栽培技術の向上 (低コストな直播取組戸数 0戸→0戸→4戸) ・ 畑作物の安定生産による収益性向上 (コスト低減取組戸数 3戸→3戸→5戸) ・ 機械のコスト低減と生産性向上 (機械の共同利用件数 4→4→7) 	羽幌町	羽幌町築別2地域 (7戸)	高橋係長 千石主査 工藤主査 杉村専普 水沼普指 田中普指 西野普職 道端普職 武田次長	R3～R7



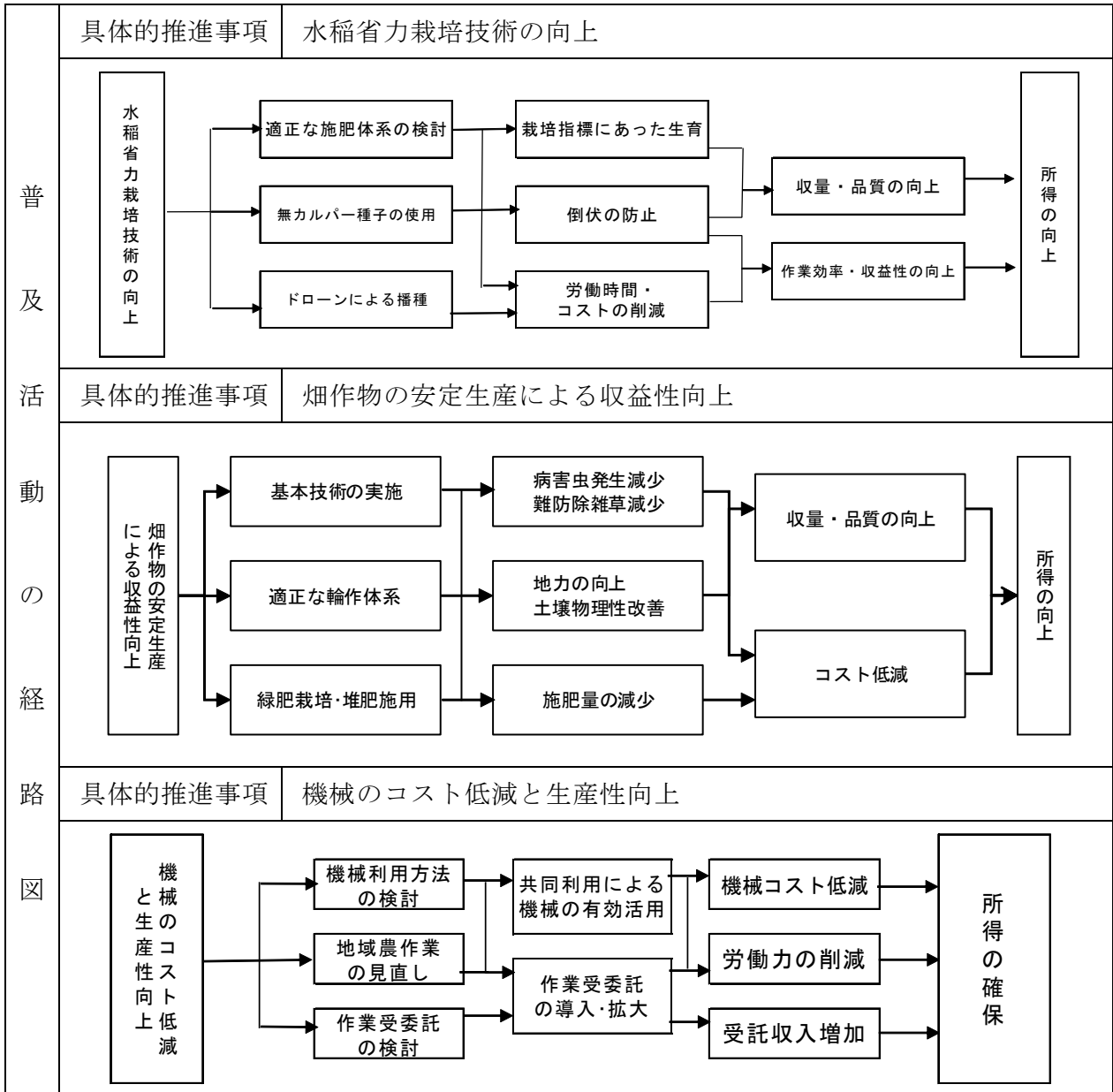
b 重点的に取り組む地域課題（地域係）

(a) 推進計画

課題名		ゆとりある豊かな地域農業の確立	
対象地域		羽幌町築別2地域（7戸）	
主な活動目標		水稲省力化技術の向上と面積拡大 畑作物の安定生産による収益性向上 機械の有効活用によるコスト低減と生産性向上	
活 動	R 3 (実績)	水稲省力栽培技術の向上 ・水稲湛水直播技術実践60%以上戸数 畑作物の安定生産による収益性向上 ・地力対策実施面積 機械のコスト低減と生産性向上 ・機械利用組合利用料金設定件数	(現況→目標→実績) (0戸→1戸→3戸) (のべ14.6ha→20ha→26.8ha) (1→2→3)
	R 4 (実績)	水稲省力栽培技術の向上 ・水稲湛水直播技術実践80%以上農家 畑作物の安定生産による収益性向上 ・地力対策実施面積 機械のコスト低減と生産性向上 ・機械利用組合利用料金設定件数	(現況→目標→実績) (0戸→4戸→4戸) (のべ26.8ha→30ha→25.6ha) (3→5→5)
年 次	R 5 (計画)	水稲省力栽培技術の向上 ・低コストな直播取組戸数 畑作物の安定生産による収益性向上 ・コスト低減取組戸数 機械のコスト低減と生産性向上 ・機械の共同利用件数	(開始年→現況→本年度目標) (0戸→0戸→4戸) (3戸→3戸→5戸) (4→4→7)
	R 6 (計画)	水稲省力栽培技術の収益性向上 畑作物の安定生産による収益性向上 機械のコスト低減と生産性向上	
	R 7 (計画)	水稲省力栽培技術の収益性向上 畑作物の安定生産による収益性向上 機械のコスト低減と生産性向上	

(b) 実践計画

課題番号	4	活動期間	令和3～7年度	担当係	本所地域係
課題名	ゆとりある豊かな地域農業の確立				
キャッチフレーズ	魅力！、活力！、省力！、次代につながる地域農業				
対象地域	羽幌町築別2地域（7戸）				
担当者	高橋係長、千石主査、工藤主査、 杉村専普、水沼普指、田中普指、 西野普職、道端普職、武田次長	連携機関	羽幌町、JAるもい		
関連事業					
重点 対 象 の 状 況	築別2地域：（R4現在） 経営主平均年齢42.3歳（60代1人、40代2人、30代4人） 耕作面積229ha（内転作86ha）、水稲131ha、秋まき小麦43ha、春まき小麦19ha、 大豆26ha、野菜5ha、その他5ha				
	<p>(1) 羽幌町築別2地域は若手農業者が多く、1戸当たり経営面積は32.7haと規模拡大が進んでおり、労働力の確保が個別経営の限界に近づいている。</p> <p>(2) スマート農業については、ドローンや直進アシスト田植機等が導入されている。</p> <p>(3) 経営移譲が進んだが、今後は親世代のリタイヤ等による労働力不足が予測される。</p> <p>(4) 水稲では、規模拡大による労働不足の対策として湛水直播栽培に取り組んでいるが、機械装備や資材コストの低減が必要になっている。</p> <p>(5) 畑作は水田転作が多く、透排水性不良による生育不良や連作過多による雑草害・土壌病害のため収量性が低い。</p> <p>(6) 機械コストと労働力の低減を目的に、平成30年に機械利用組合が設立された。今後の共同作業機械の導入や機械の共同利用を検討している。</p> <p>(7) 肥料等の高騰による経営への影響を最小限にするべく、コスト低減への取組は急務となっている。</p>				
最終年度 到達目標	地域農業粗生産額（H28～R2の平均） 3%向上				
具体的推進事項 ・目標事項（開始年→現況→本年度目標）	普及対象	担当者	連携機関		
<u>水稲省力栽培技術の向上</u> ・低コストな直播取組戸数 （0戸→0戸→4戸）	直播栽培農家 （4戸）	高橋係長 千石主査 工藤主査 杉村専普	羽幌町 JAるもい		
<u>畑作物の安定生産による収益性向上</u> ・コスト低減取組戸数 （3戸→3戸→5戸）	畑作栽培農家 （7戸）	水沼普指 田中普指 西野普職 道端普職			
<u>機械のコスト低減と生産性向上</u> ・機械の共同利用件数 （4→4→7）	重点全農家 （7戸）	武田次長			



活動内容・方法

